

著者 (発表年): タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Rickert, V. L., et al. <sup>9)</sup> (2002): Is lack of sexual assertiveness among adolescent and young adult women a cause for concern?	女性の人口統計的特性、性に関する保健行動、暴力を受けた経験によって、性に関する自己主張がどのよう異なるかを調べる。	性交経験のある14～26歳の家族計画クリニックの女性クライアント904名	質問紙調査 (1997年4月から11月): 人口統計特性 (年齢、人種や民族など)、生殖に関する特性 (parity, 妊娠、初経年齢など)、避妊法の使用と性的ハイリスク行動 (セックスパートナーの数、セックス前の薬物使用など)、身体的あるいは性的暴力を受けた経験、性に関する自己主張 (sexual assertiveness): “私は～する権利を持っている” で始まる13項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>白人より黒人・ヒスパニックの方が、STD感染や望まない妊娠を予防する権利など性に関わる権利を持っていないかと思っていた。</li> <li>成績が低かった女性の方が、前戯を止めたり、なじみのパートナーとのセックスを拒否したりする権利がないかと思っていた。</li> <li>18～21歳の女性はそれより年上の女性より、STD 検査歴を尋ねることができないかと思っていた。</li> <li>過去のセックスパートナーが1人か2人であった女性は自己主張の信念が少なかった。</li> <li>毎回避妊しているわけではない女性は、性に関する権利を多く持っていないかと思っていた。</li> <li>身体的被害待経験のない女性は、なじみのパートナーとのセックスを拒否する権利がないかと思っていた。</li> <li>性的被害待経験のある女性は性行為について自己決定する権利がないかと思っていた。</li> </ul>

著者 (発表年): タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Faulkner, S. L., et al. <sup>10)</sup> (2002): Reconciling Messages: The Process of Sexual Talks for Latinas	若いラテンアメリカ人女性のセクシュアリティに関する経験と意味のインタビューを通して検討する。	米国北東部 現在、恋愛あるいは性関係のあるラテンアメリカ人女性 31名; ブエルトリコ人, ドミニカ人, キューバ人 平均年齢 23 歳	面接調査 (グラウンデッド・セオリー): パートナー, 家族, 宗教, セーフ・セックスについて話し合ったか, どのよう話し合ったか, 性 (sex) の定義, 中絶, HIV 検査, 性的行為の取り決め 質問紙 (人口統計学的データ, 現在の性的行為, 性パートナーの数, 避妊法の使用など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恋愛関係にあることは女性が性的に活発になることで, パートナーと性について話すことのような問題を考え, 性に関するメッセージについての自分の信念や価値観を吟味するようになっている。</li> <li>・すべての女性が自分の性の状況や信念システムに関わりなく, ラテンアメリカ社会のメッセージである処女性性についての考えと闘っていた。</li> <li>・コアカテゴリー「Reconciling Messages (メッセージを調和させる)」自分の価値システムに合うメッセージを受け入れ, 信念とは違うと感じるメッセージを拒絶し, 恋愛関係の中と外の両方での性的な自己と決断を受け入れるためにメッセージを変化させたりするラテンアメリカ人女性のプロセス</li> <li>・率直さと気楽さが性に関する会話に関連していた。</li> <li>・パートナーとはまだ心地よい関係になっていない場合, トピックを選択し, 率直である必要はないと感じたり, 率直になれなかったりする女性は, 非言語的に性的願望を伝え, 率直であることに心地よさを感じなかったり, いやがったりする女性は話さなかった。</li> </ul>

表4. 親子間の性に関するコミュニケーションの内容やタイプ

著者 (発表年): タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Hepburn, E. H. <sup>14)</sup> (1983): A three-level model of parent-daughter communication about sexual topics	性に関する問題についての家族内コミュニケーションを明らかにする。	48 家族 娘は郊外にある私立女子校 9～12 学年 白人, 上級あるいは中上級階級	半構成的面接調査: 両親は一緒に、娘は別尺度化された質問とオープンエンド質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの種類: 性情報の伝達, 性に対する価値観を教える, 禁止行動を伝える</li> <li>・大多数の家族が性に関する社会問題について一般的な話をしている。それは親の性に対する価値観を間接的に伝達するために意図的な計画されたものであった。</li> <li>・家族内の性的社会化におけるコミュニケーションのレベル:                          The Big Talk (前思春期); 母と娘の間で月経, 生殖, セックスについて                          Tea Talks (思春期初～中期); 母と娘の間で避妊, 中絶, 10 代の妊娠, 同性愛, ペッティング, レイプについて                          Social Issues Discussions (思春期～成人期); 家族全員あるいは母, 父, 娘の間で, 姦淫, 不倫, 中絶の非合法性, 同性愛, レイプについて</li> </ul>
Bennett, S.M. <sup>15)</sup> (1984): Family Environment for Sexual Learning as a Function of Fathers' Involvement in Family Work and Discipline	子どもに認知された性教育における親の役割を調査する。	大学生 182 名 男子 108 名 女子 74 名 平均年齢: 男子 18.8 歳 女子 18.5 歳	質問紙調査: <ul style="list-style-type: none"> <li>・The Sex Educational Inventory (SEI) (Bennett, et al); 家事と子育ての責任分担, 性教育における家庭環境, 親との信頼関係, 親との性に関する会話, 性に関する寛容さ</li> <li>・The Sexual Experiences Inventory (SEXI); 学生の性行動</li> <li>・The Bem Sex Role Inventory (BSRI) (Bem, 1974); 男らしさ, 女らしさ, 性役割志向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子は女子よりも父親と多くの話をし、話しにくさはないが、男女とも父親より母親との方が性の話をしやすいと感じていた。</li> <li>・女子は男子より、母親と自分の性に対する態度が似ていると思っていた。</li> <li>・父親が母親と家事や子育てを分担してきたと思う学生の方が、両親との関係がよく、父親とさまざまな性に関する話をくつろいでしていた。</li> <li>・父親と母親がしつこく分担してきたと思う学生のほうが、より好ましい性教育環境にあった。</li> <li>・父親が主にしつこく分担した家庭環境は、父親が分担した家庭環境より、性教育にとってはよくなくかつたが、母親が担当した家庭環境よりはいくぶんよかつた。</li> <li>・両親がしつこく分担したと思う学生の方が、父親が担当者だった学生より、父親と性について話すのに抵抗はなかつた。</li> <li>・父親のしつこくへの関与と学生の性役割志向との間に関連があつた。</li> </ul>

著者 (発表年): タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Baldwin, S. E. et al. <sup>16)</sup> (1990): Family interactions and sex education in the home	家族内の相互作用パターンと、家庭で行われている性教育の量との関係を調べる	13~14歳の子ども 96名 (男子41名 女子55名) とその親63名 (母親61名 父親45名)	質問紙調査: ・FACES-II (Olson et al, 1982) ・The Parent-Adolescent Communication Scale (Olson et al, 1982) ・The Home Discussion Questionnaire (Baldwin et al, 1990)	子どもによる母子間の会話スコアと家庭内の性教育の量との間には有意な相関関係があった。 ・家族関係に満足している子どものほうが、家庭内で性教育を受けていた。 ・バランスのとれている家族の父親は、バランスの悪い家族の父親よりも会話スコアが高かった。 ・バランスのとれた家族の父親は、バランスの悪い家族の父親よりも性教育に関与していた。
Nolin, M. J. et al. <sup>17)</sup> (1992): Gender differences in parent-child communication about sexuality: An exploratory study	性教育者としての母親と父親、その受け手としての娘と息子との違いをさらに明らかにする。	84組の父・母・子 (高校男子38名 女子46名) 14~18歳 (平均16歳)	質問紙調査: 性に関する会話の内容 (事実や生物学的なこと、性に関する社会問題、モラルの3タイプ) 性に関する話のしやすさ 会話の頻度 フォーカス・グループ: 質問紙調査からのデータの予備分析によって示された非構成的および半構成的な質問	親-娘コミュニケーションなどのタイプの話題でも、親-息子コミュニケーションより幅広く行われていた。性差は事実とモラルの会話で最も顕著であった。 ・ほとんどの親が、子どもが高校生の時に最も性的話がしやすいと感じていた。(→フォーカス・グループではこの結果に疑問の声。小児期初期の方が話しやすく、成長するにつれ難しくなる) しかし、高校時代に話しやすいと答えた男子は半数以下であった。 性的話がしやすいと感じる男子は事実とモラルについては話をしますが、親-女子は話しやすさにはそれほど関係なく、事実とモラルの話をしていた。 フォーカス・グループ ・自分自身が親と話をしていないので、モデルがなかった。 ・母親は月経について女子に話すことが、幅広い項目について話せる信頼関係を築く機会になっていた。男子にはそのような機会はなく、男子の性的成熟に関する出来事である夢精やオバ・ジョンは、親と子どもによって最も話しくい項目であった。

著者 (発表年): タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Rosenthal, D. A. et al. <sup>18)</sup> (1998): Mum's the word: mothers' perspectives on communication about sexuality with adolescents	母親のとらえている思春期の子どもとの性に関するコミュニケーションのスタイル、内容、頻度を調査する。	16歳の子どもをもつ30名の母親 息子16名 娘14名 メルボルン(オーストラリア)に住む中流～中下層階級のアングロケルト集団	半構成的面接調査: 思春期の子どもに対する性情報の提供における親の役割; その性質、スタイル、頻度 性に関する話の文脈; 誰が話を始め、続け、終わらせたか 話したトピック 避けたトピック、避けた理由 性に関する話に対する障害 子どもとの性についての話に対する満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体的な発達、性と生殖に関する危険についてはすべての親が話していた。心理的問題を話した親は少なく、non-penetrative sexual practices (マスターベーション、夢精、オーラルセックスなど)についてはさらに少ないかった。</li> <li>母子間コミュニケーションの5つのタイプ <ul style="list-style-type: none"> <li>① avoidant (回避) タイプ (3人): 母子ともに会話を避ける。身体的発達、危険、生殖については話す。</li> <li>② reactive (反応) タイプ (6人): 必要に迫られたとき、母から子に一方的に話す。身体的発達、危険、生殖について話す。</li> <li>③ opportunistic (機会) タイプ (9人): 子どもと性について話し合いたいと思ってるが、あまりしていない。TVや学校での性教育、友人などきっかけを探している。身体の発達への対処のしかたやセックスに対する責任など心理的問題も話している。</li> <li>④ child-initiated (子ども主導) タイプ: 子どもから話し始めるのを待つ (7人): 性的欲求、望まない性行為への対処法、欲求のほけ口(オーラルセックス、マスターベーション、夢精など)についても話している。</li> <li>⑤ mutually-initiated (相互) タイプ (5人): オープンで親密にさまざまな話をしている。</li> </ul> </li> </ul>
Miller, K. S. et al. <sup>19)</sup> (1998): Family communication about sex: what are parents saying and are their adolescents listening?	マイノリティの家族における性に関する親子間の会話と、その内容がどのように伝達されるかを明らかにする。	アラバマの公立高校2校、NYの公立高校1校、プエルトリコの公立高校1校から募集した14～16歳のヒスパニック系と黒人907組の母子 平均年齢: 子ども	構成的面接調査 (母子は別々にインタビュー) (1993から1994年に実施): 10項目について母親/父親/子どもと話したことがあるか ①セックスの開始時期②避妊 ③コンドーム④AIDS・HIV ⑤生殖・子どもを産むこと ⑥身体的・性的発達⑦マスターベーション ⑧STDs⑨友人あるいはパートナーからの性的プレッシャーへの対処法 ⑩セックスパートナーの選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIDSやHIV、STDsについては多くの母子が話していたが、マスターベーションや身体的・性的発達の話は少なかった。</li> <li>父親とよく話をしていたのは、AIDSやSTDsの次にコンドーム、セックスに対するプレッシャー、セックスパートナーの選択、セックスの開始時期、生殖、避妊だった。</li> <li>男子は女子より父親と、女子は男子より母親と話をしていた。</li> <li>母親の方が子どもよりも話をしたことがあると思っ項目が多かった。母子間の一致度の高い項目</li> </ul>

著者 (発表年) : タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Dilorio, C. et al. <sup>20)</sup> (1999): Communication About Sexual Issues : Mothers, Fathers, and Friends	母親と思春期前期の子供との間の性についての会話の内容, 特性, 気楽さレベルを明らかにし, その会話が性に對する価値観やセックスの開始をどれだけ予測できるかを測定する。	13 歳~15 歳の子ども 405 名とその母親 382 名 (23 名の母親には 2 人子どももいたため, 各々の子どもについて回答した)。大半がアフリカン・アメリカン。母親の平均年齢 37.8 歳	母子間のコミュニケーションのプロセス Family Adolescent Risk Behavior and Communication Study (Miller et al)	目は AIDS (どちらも話したと回答) とマスタベーション (どちらも話していないと回答) だった。 ・女子の方が男子より母親との回答の一致度が高かった。 ・オープンで受容的なコミュニケーションをしている母子で一致度が高く, 話した項目も多かった。
		13 歳~15 歳の子ども 405 名とその母親 382 名 (23 名の母親には 2 人子どももいたため, 各々の子どもについて回答した)。大半がアフリカン・アメリカン。母親の平均年齢 37.8 歳	構成的面接調査: 性についての項目 ①STD・AIDS②コンドームの使用 ③性交④デートや性行動 ⑤妊娠すること・させること ⑥友だちの 10 代のセックスに対する考え ⑦不特定のセックスパートナーの危険性 ⑧母親の 10 代のセックスに対する考え ⑨親になると人生はどのように変わるか ⑩セックスをしないこと (禁欲) ⑪避妊 ⑫夢精⑬父親の 10 代のセックスに対する考え⑭月経周期 話やすさ, 性に対する態度, セックス経験	・男女とも, 父親より母親と性に関する話をしていた。 ・男子の方が女子より父親と話をしていた。 ・男女とも, 友人より母親と性に関する話をしていた。しかし, 父親より友人と話をしていた。 ・男子は STD や AIDS, コンドームの使用についてよく話していた。 ・女子は母親と月経周期について, 父親と性の禁欲, 友人と性交について話していた。 ・母親と多くの項目を話した子どもは, 性交未経験で, 保守的な価値観を持つ傾向にあった。 ・一方, 友人と多く話した子どもは, 性交経験があり, 自由な性に対する価値観を持つ傾向にあった。 ・男女とも, 最も気楽に話せるのは友人であった。男子は母親とが最も話しにくく, しかし, 女子よりも父親とは話しやすいと答えていた。 ・母親はほとんどすべての項目で, 話しやすいと感じていた。

表5. 親子間の性に関するコミュニケーションが子どもの性に及ぼす影響

著者 (発表年): タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Newcomer, S. F. et al. <sup>21)</sup> (1985): Parent-child communication and adolescent sexual behavior	親子間のコミュニケーションが思春期の子どもへの性行動に及ぼす影響について調査する。	1980年と1982年の調査に参加し、1980年時点で性交未経験であり、1980年の調査に母親が参加している中学生: 白人の母と息子 205組, 白人の母と娘 270組 (黒人の対象者は少なかつたので除外)	構成的面接・質問紙調査: 1980年と1982年の2回実施 親の性(婚前性交)に対する態度, 親子間の会話(避妊, 性に関すること, 性について学習するよう子どもにすすめる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの回答した親の性に対する態度や性に関する会話と親の回答とは一致しなかつた。</li> <li>・母親の態度や会話が子どもへの性交開始に及ぼす影響で有意差があったのは一つだけ; 1980年の調査で, 性に関することを教えたときと答えた母親の娘の方が, 1982年までに性交を経験する確率が低かった。</li> <li>・母親と避妊について話したことがあると回答した女子のみ, 最近のセックスで計画的な避妊(ピル, コンドーム, ペッサリー, 発泡剤)を使用する確率が高かった。</li> </ul>
Fisher, T. D. <sup>22)</sup> (1986): Parent-child communication about sex and young adolescents' sexual knowledge and attitudes	親としばしば性について話し合う思春期の子どもと、めったに話し合わない子どもとの、性に関する知識、態度、避妊法選択の違いを調べる。	12~14歳の子ども (男子10名, 女子12名) とその親 (父親3名, 母親19名) 22組	質問紙調査: 生殖と避妊に関する知識 ・The Miller-Fisk Sexual Knowledge Test (Gough, 1974), 性に対する態度 ・Calderwood's Checklist of Attitudes Toward Aspects of Human Sexuality (Calderwood, 1971) 親に対する質問; 一般的な情報(職業, 宗教, 教育など), 子どもとの性に関する会話の程度と内容, 子どもに対する質問; 性教育経験, 避妊法(もしセックスするとしたら)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとよく性について話す親の方が性知識得点は高かった。</li> <li>・高コミュニケーション群と低コミュニケーション群とで, 子どもの知識や態度, 避妊法選択に有意差はなかつた。</li> <li>・高コミュニケーション群の親と子の性に対する態度得点には相関があったが, 低コミュニケーション群にはなかつた。</li> </ul>
Mueller, K. E. et al. <sup>23)</sup> (1990): Parent-child sexual discussion: perceived communicator style and subsequent behavior	子どもがとらえている親の性に対する会話スタイルと子どもの性行動と性情報の正確さとの関係を調査する。	米国中西部にある大学の学生 234名 (男子120名, 女子111名, 無回答3名), うち有効回答 143名	質問紙調査: Norton's Communicator Style Measure (CSM) (1978); 性情報の正確さ The Miller-Fisk Sexual Knowledge Test (Gough, 1974); 性行動・避妊行動 (Jorgensen & Sonstegard, 1984)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友好的 friendly や思いやりのある attentive コミュニケーション・スタイルの親をもつ学生は, 中学時代・大学時代・全体的に性行動が活発ではなかつた。</li> <li>・論争的 contentious, 感情豊かな expressive, 劇的な dramatic, オープンな open, 支配的な dominant 会話スタイルの親を持つ学生は, 中学時代に性行動が活発だった。劇的な会話スタイルの親を持つ学生は高校時代に性行動が活発だった。</li> <li>・友好的, 思いやりのある会話スタイルの親を持つ学生は, 中学時代・大学時代・全体的</li> </ul>

著者 (発表年): タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Pick, S. et al <sup>24</sup> (1995): Impact of the family on the sex lives of adolescents	<p>思春期の性に対する態度や行動におよぼす家族の影響を調べる。</p> <p>研究① 性経験の有無, 避妊経験の有無, 妊娠経験の有無と比較する。</p> <p>研究② パートナーを妊娠させた経験のある若年男性と経験のない若年男性間の違いを調べる。</p> <p>研究③ 親と子どもによつてとらえられた性に関するコミュニケーションのレベルを調べる。</p>	<p>メキシコシティ</p> <p>研究① 12~19歳の女子 1,257名, 下層~中下層階級</p> <p>研究② 病院や家族計画クリニックで集めた338名の男子 (妊娠させたことがある159名, ない179名)</p> <p>研究③ 父親 282名, 母親 580名, 思春期の子ども (下層および中下層階級の学校から選んだ8~12学年) 725名 (父子 115組, 父子 100組, 母子 382組, 父のみ 38名, 母のみ 54名, 父子 29組, 子どものみ 128名)</p>	<p>研究①, 研究② 質問紙調査: 家族について (養育者, 母親または姉妹の結婚前の妊娠歴), 家族との関係 (父親・母親との関係, 一般的・性的・性に関する問題についての話し合いの頻度)</p> <p>研究③ 質問紙調査: 親子間の性に関するコミュニケーション, 親の感じる会話をすすめる難しさについて本論文では分析</p>	<p>に責任のある避妊行動をとっていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンな会話スタイルの場合, 高校・大学時代によく避妊していた。</li> <li>・論争的, 劇的な会話スタイルの親であるほど, 高校・大学時代に避妊行動していなかった。</li> <li>・友好的, リラックス relaxed, 思いやりのある, 正確な precise, 劇的な communicator image の親をもつ学生は, 性情報の正確さが低かった。</li> </ul>
				<p>研究①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・16~19歳では, 母親と性についてよく話し, 思春期に妊娠した姉妹がなく, 初めての妊娠時には結婚していた母親をもつ女子で, 性経験のある確率が低かった。12~15歳でも同様だった。</li> <li>・母親と性についてよく話し, 初めての妊娠時には結婚していた母親をもつ女子 (16~19歳の調査) で, 避妊経験のある確率が高かった。</li> <li>・母親と性についてよく話し, 初めての妊娠時には結婚していた母親をもち, 母親を肯定的にとらえている女子で, 妊娠経験のある確率が低かった。</li> </ul> <p>研究②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母親および父親と話をしている男子は, 妊娠させる確率が低かった。</li> <li>・パートナーと同居している男子は, 両親に育てられ, 母親とよく話をしていた。</li> </ul> <p>研究③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母親の方が父親よりコミュニケーションのレベルが高かった。</li> <li>・子どもは父親よりコミュニケーションのレベルを低く評価していた。男女とも父親が思うより, 父親と性の話をしづらいつらいつら感じていた。</li> <li>・母親と息子では父親と子どもと同様だったが, 母親と娘では違っていた。</li> </ul>



著者 (発表年): タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Jaccard, J. et al. <sup>25)</sup> (1996): Maternal correlates of adolescent sexual and contraceptive behavior	母親の婚前性交反対は子どもの性行動や避妊行動に關連するか、避妊についての親子間の会話と子どもの性行動や避妊行動との間に關連があるか、母親との関係の満足感と性行動に關連があるか、満足感はどのように母親の婚前性交に対する態度と子どもの性行動との關連を變化させるかを調べる。	フィラデルフィアに住む14~17歳の黒人男女751名とその母親あるいは養育者 子どもの平均年齢15歳 母親の平均年齢40歳	構成的面接調査・質問紙調査 (1993年3月~7月): 子どもの性行動, 婚前性交に対する態度, 避妊についての会話, 関係に対する満足感	<ul style="list-style-type: none"> <li>母親との関係に満足していること, 母親は婚前性交に反対していると思っ ていること (セックスしないあるいは回数が少 なかつた)。</li> <li>避妊について母親と話すほど, 子どもがセックスを始める確率が高かつ た。</li> <li>母親との関係に満足し, 母親は 婚前性交に反対していると思 うほど, 継続的に避妊してい た。</li> <li>避妊についての話は, 男子の 性行動を活発にし, 継続的な避妊と關連 していた。</li> </ul>
Dutra, R. et al. <sup>26)</sup> (1999): The Process and Content of Sexual Communication with Adolescents in Two-Parent Families	思春期の子どもと両親間の性に関するコミュニケーションの2側面-プロセスと内容-, および親子間の性に関するコミュニケーションと性に関するリスク行動との關係を調べる。	アラバマの公立高校2校, NYの公立高校1校, プエルトリコの公立高校1校から募集した14~16歳のヒスパニック系と黒人332組の母子 (実の両親が結婚して同居していること): 男子43%, 女子57% 平均年齢: 子ども15.26歳, 母親41.72歳	Family Adolescent Risk Behavior and Communication Study (Miller et al) 構成的面接調査 (母子は別々にインタビュー): 人口統計データ 性に関するコミュニケーションのプロセス <ul style="list-style-type: none"> <li>Process of Communication Between Mother and Adolescent (MSC-P)</li> <li>Process of Communication Between Father and Adolescent (PSC-P)</li> <li>コミュニケーションの内容</li> <li>Content of Sexual Communication Between Mother and Adolescent (MSC-C)</li> <li>Content of Sexual Communication Between Father and Adolescent (PSC-C)</li> </ul> 性行動 (性的リスク行動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>母親ほどの項目も父親より話をしていた。</li> <li>コミュニケーションのプロセスがオープンで受容的であるほど, 性について多くの話をしていた。</li> <li>母親のコミュニケーション・プロセスと父親のコミュニケーション・プロセス, 母親とのコミュニケーション内容と父親とのコミュニケーション内容は各々, 正に相關していた。</li> <li>父親より母親の方がオープンで受容的なコミュニケーションであった。女子は父親より母親のコミュニケーションの方がよいと報告していたが, 男子では差がなかつた。コミュニケーションの内容についても, 女子では母親の方がさまざまな話をしていたが, 男子では父母で差がなかつた。</li> <li>母親のコミュニケーションがオープンで受容的であるとき, さまざまなトピックについて話をしているとき, 子どものリスク行動の頻度は減少していた。父親のコミュニケーションとは關連がなかつた。</li> </ul>

著者 (発表年): タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Whitaker, D. J., et al <sup>27)</sup> (1999): Teenage Partners' Communication About Sexual Risk and Condom Use: The Importance of Parent-Teenager Discussions	十代の若者のセックスパートナーとのコミュニケーションとコンドーム使用とが、どのような親子間のコミュニケーションに親に影響を受けているのかを明らかにする。3つの因子: ①性的問題に関する親子間の会話, ②性的リスクに関する問題についての親子間の会話, ③子どもと性について話をするときの親のオープンさ, うまさ, 落ち着き comfort (これを反応性 responsiveness とする)	アラバマの公立高校2校, NYの公立高校1校, プエルトリコの公立高校1校から募集した(1993年10月~1994年6月に実施)した思春期の子どもと母親の横断調査(参加者) 907組の母子 分析は子どもが少なくとも1回は性交を経験している372組	構成的面接調査 (母子は別々にインタビュー) セクシュアリティとリスクに関する会話 (セクシュアリティに関する7項目: ① セックスを始める時期 ② 避妊 ③ 生殖 ④ 身体的・性的発達 ⑤ 月経 ⑥ マスターベーション ⑦ セックスに対するプレッシャーへの対処 リスクに関する4項目: ① コンドーム ② HIVとAIDS ③ STD ④ セックスパートナーの選択 親の反応性 (性について話すときの母親のオープンさ, うまさ, 落ち着き) パートナーとのコミュニケーション (リスクに関する4項目) コンドームの使用	・親の反応性が高いとき, セクシュアリティに関する会話とパートナーとのコミュニケーション, リスクに関する会話とパートナーとのコミュニケーションは正の相関を示した。 ・親の反応性が高いとき, セクシュアリティに関する会話と過去のセックスでのコンドーム使用と関連があった。反応性が低いとき, セクシュアリティに関する会話は最近 (有意差あり) と過去 (有意差なし) のセックスでのコンドーム使用と負の相関があった。 ・親の反応性が高いとき, リスクについての会話は最近と過去のセックスでのコンドーム使用と関連があった。反応性が低いとき, リスクについての会話は最近と過去のセックスでのコンドーム使用と関連に有意差はなかった。
Stone, N., et al <sup>28)</sup> (2002): Factors affecting British teenagers' contraceptive use at first intercourse: The importance of partner communication	Ingham の枠組みの中のいくつかの関連性を質問紙調査によって検討する。	16~18歳の生徒 963名; 女子60% 男子40% 54%が16歳 92%が白人	1999年, 英国の10代の性に対する態度, 知識, 行動を調査 40名に対して面接を行った後, 16~18歳の学生に対して, 自記式質問紙調査を実施: 基本的な人口統計項目; 小学校時代 (5~11歳) と中学時代 (11~15歳) の親や友人との関係; 性に関する健康問題に対する知識と態度; (性経験のある回答者に対して) 初めてのセックスに関する項目 (相手, 前後の気持ち, 時期, 避妊法など)	・性経験のある回答者の方が親との友好関係や availability の得点が低かった。 ・性経験のある回答者の方が友人との関係を示す得点が高かった。 ・男子: 避妊についての話し合いと親密を理由としたセックス, 親が性について肯定的に話すことは避妊実践に正の影響があった。 ・女子: 事前の避妊についての話し合い初交年輪が高いこと, 予期していたセックス, 男子との交流, 援助者訪問が避妊実践の予測因子になっていた。 ・男子: 貧困地域に住んでいる男子は話し合いの確率が低かった。セックス以前の関係が長いカップルほど, 事前に話し合っている確率は高かった。事前に話し合う能力は, 性に

著者 (発表年) : タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Romo, L. F., et al. <sup>28)</sup> (2002) : A Longitudinal Study of Maternal Messages About Dating and Sexuality and Their Influence on Latino Adolescents	ラテン系家族におけるセクシュアリティについての思春期の若者とその母親との会話の性質と、思春期の若者の行動と態度に及ぼす影響を明らかにする。	ラテンアメリカ人の母親と思春期の子ども (女子 35 名, 男子 20 名 / 12.5 歳・7 学年以上) 55 組 子どもの平均年齢 14.1 歳, 母親の平均年齢 39 歳	母子が 2 人きりで「デートとセクシュアリティ」「AIDS」「母子で意見の違うこと」について話し合っている場面をビデオ録画 その後、母子別々の部屋で質問紙調査を実施 施：人口統計データ、子どもの性行動、子どもが感じているコミュニケーションのオープンさ < Parent Adolescent Communication [PAC] Openness Subscale (Barnes H, et al, 1982) >、子どもの婚前性交に対する態度 1 年後にも同様のセッションを実施。	ついでのとともオープンな親と話し合いに 関係していた。 ・女子：親密さがセックスの理由である女子は、事前に避妊について話し合う確率が高かった。available な親との友好な関係を持つ女子もまた避妊についての話し合う確率が高かった。 ・母親のメッセージ①デートやセクシュアリティについての信念や価値観 ②十代の頃のデートやセクシュアリティに関連する経験の自己開示 ③思春期の子ども (または、きょうだいや友人) に関するデートや性経験に対する意見 ④起こりうる結果についての警告 ⑤思春期の子どもがすべきあるいはすべきでないことについての助言あるいは提案 ・信念と価値観のメッセージが最も時間が長く、アドバイスを警告が伴っていた。 ・オープンな関係にある子どもの方が、婚前性交に対して保守的な態度を持っていた。 ・保守的な態度は性経験の少なさとに関連があり、婚前性交に対する態度はわずかに性行動と関連があった。 ・信念と価値観についてより長く話した母親の子どもは、1 年後の性行動が少なかった。 ・初回の子どもの日常活動についての意見は、1 年後における性経験の予測因子となっていた。 ・母親の自己開示は、1 年後の母親とのオープンなコミュニケーションに関連があった。自己開示は婚前性交に対する保守的な態度と関連があった。

表6. 健康教育プログラム

著者 (発表年): タイトル	目的	対象	方法	結果の概要
Gomez, C. A., et al <sup>30)</sup> (1999): Sex in the new world: An empowerment model for HIV prevention in Latina immigrant women	ラテン移民女性のための多角的なエンパワメント・プログラムの HIV リスク行動に与える影響を評価する。	MUA プログラムに加入した 94 名のラテンアメリカ人女性が参加し、うち 74 名が全調査時期に参加 (21%が脱落)。参加者の多くは 30 歳以上、独身、スペイン語を話している。米国居住 5 年未満の者は 39%のみ	前向き研究 prospective study Baseline interview: MUA オフィスで。研究についての説明、参加同意手続き、聞き取り調査 Follow-up interview (3ヶ月後、6ヶ月後): 参加者の自宅または電話で実施 人口統計データ、パートナーとの性についての話のしやすさ、女性のとらえる自分に対するパートナーの意志決定力、コンドームの使用を要求できる女性の力、性に関わる気楽さ、伝統的な性に関わるジェンダー規範、抑圧 (男性パートナーによる言葉あるいは身体的な虐待) のおそれ、抑圧の経験、コンドームの使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しやすさのレベルの高かった女性は、最近のセックスでコンドームを使用した。</li> <li>・MUA プログラム参加による変化: ①性についての話しやすさ上昇、性に関する気楽さ上昇、伝統的規範に関する信念減少、安定した関係にある女性によるパートナーの意志決定力の減少。②女性が参加した活動数は 6ヶ月間で 0~125 (中央値は 9)。10 以上の女性活動に参加した女性は活動数が 9 以下の女性より、伝統的規範に関する信念が有意に減少。リーダーシップ養成講座やボランティア講座に参加した女性はより、男性から抑圧あるいは暴力をうけることが減少していた。</li> <li>・一人で、participaciones? に参加した女性で、性に関する話しやすさのレベルが高かった。</li> </ul>
El-Bassel N., et al <sup>31)</sup> (2001): HIV prevention for intimate couples: A relationship-based model	異性カップルに対する関係性を基にした介入の効果を検証する。	低所得地域にあるブライマリーヘルスケアクリニック (NY, ブロンクス) の女性クライアント 217 名 (およびそのパートナー) 平均年齢 38 歳 アフリカンアメリカン (47.5%), ラテン系 (29.5%), 混合 (23%)	1997~2001 年に National Institute of Mental Health の補助を受けて行ったランダム臨床試験 Theory of Reasoned Action, Social Cognitive Theory, Health-Belief Approaches を統合したモデルを使用 対象者は以下の 3 条件にランダムに割り当てられた: ①6 週間のカップル対象セッション (オリエンテーションと 5 つのカップルセッション)。女性のファシリテーターによって行われる介入を受ける; ②同じ介入を女性だけが受ける; ③女性だけが女性ファシリテーターによる AIDS 情報セッションを 1 回受ける。 オリエンテーションおよび 5 回にわたる HIV 予防セッションを実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係の力に焦点を当てて: 多くのカップルがパートナーと将来のセーフセックスの計画を含む、もっと細かいことまで一緒に話し合う能力を強化したことに対する驚き喜んでいた。</li> <li>・コミュニケーションに焦点を当てて: Speaker/Listener technique が最も気に入られた介入だった。積極的な聞き手 active listener になる方法を学び、パートナーに聞いてもらえる体験をしたことは大きかった。</li> <li>・選択肢を広げる: カップルはリスク減少行動に選択肢があるという考えを喜んでいて、自分たちはSTDやHIVのリスクはないと主張するカップルの癒着である。</li> </ul>

# 異性に関心のない男女の存在に関する研究

松浦賢長（京都教育大学）

## 1. はじめに

近年、十代中絶率の増加や性交開始年齢の低下などが指摘され、若年層における性行動の変容についての研究が多く報告されてきている。そのバックグラウンドには、活発化・低年齢化する若年層の性行動をよりリスクの低いものへと変容させる必要があるという認識があるようだ。

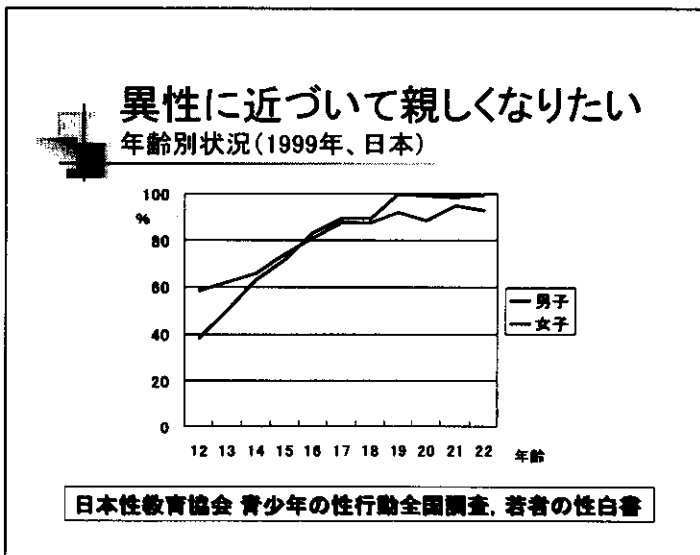
その一方1990年代より、青壮年層における性行動の不活発化が、セックスレスなどのキーワードとともに指摘されるようになってきた。わが国のデータは、中絶数の大幅な減少（全生殖年齢層）は、出生数の大幅な減少と平行に推移してきたことを示している（母体保護統計、人口動態統計）。その背景には、青壮年層における性行動の不活発化があると考えられ、近年はセックスレスという夫婦・パートナー間の関係のみならず、異性に関心のない男女（青年層）の存在についても言及されるようになって

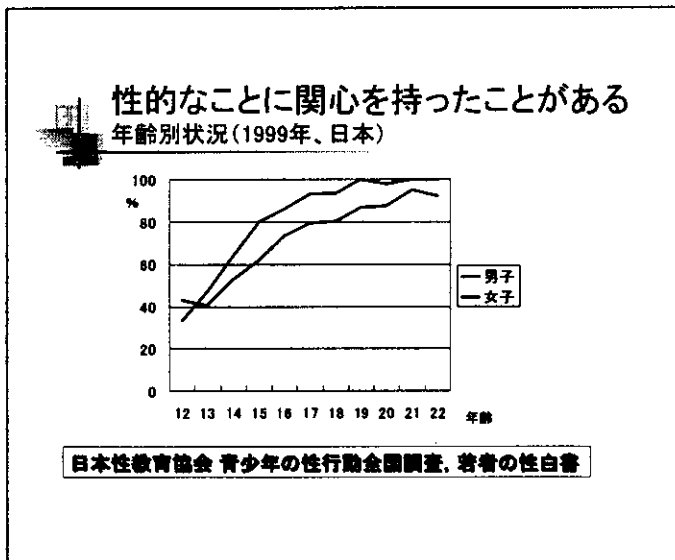
晩婚・非婚化などと強く関連している可能性がある。そこで、今回、データとしては明らかになりにくいと思われる異性に関心のない男女の存在について、それがどのようなバックグラウンドによって構成されているのかを考察したので報告する。

## 2. わが国における各調査データからの読み取り

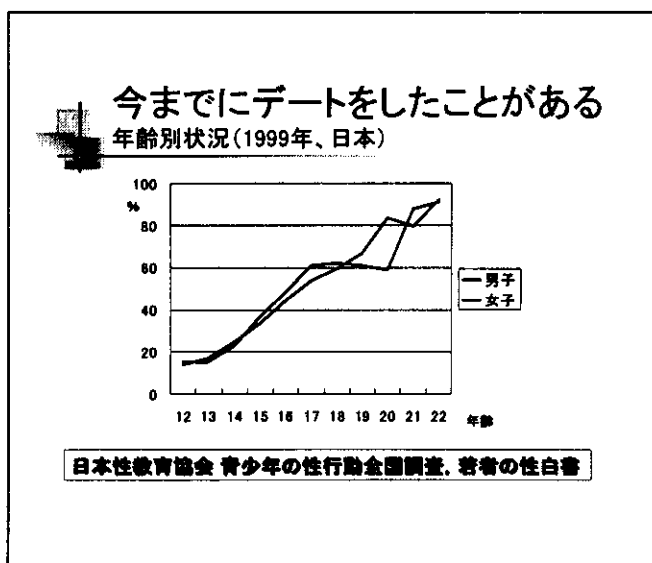
### 2-1. 日本性教育協会：青少年の性行動全国調査

日本性教育協会が5年ごとにおこなっている青少年の性行動全国調査のデータから引用していく。発表されている最新の調査は1999年のものであった。異性に近づいて親しくなりたいと思うものの割合を性別、年齢別に下の図に示した。男子は19歳にてほぼ100%に達している。女子は19歳にて約90%になった以降は頭打ちになっていることがわかる。

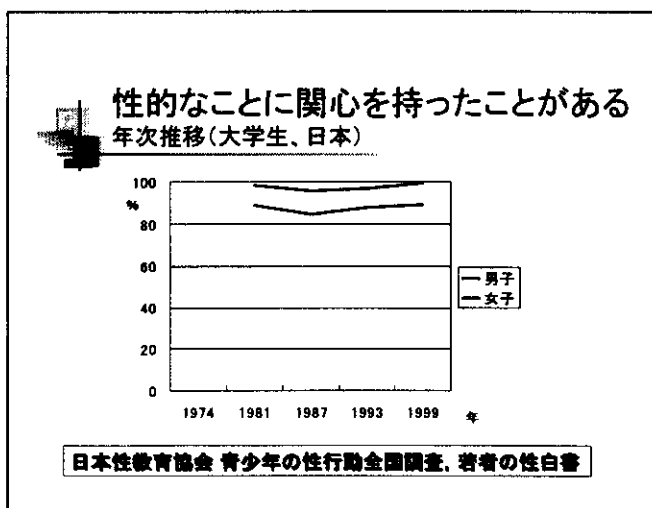




また左の図であるが、性的なことに関心を持ったことがあるものの割合についても、男子は19歳にて100%に達しているのに対し、女子においては、100%に達することはないことがわかる。

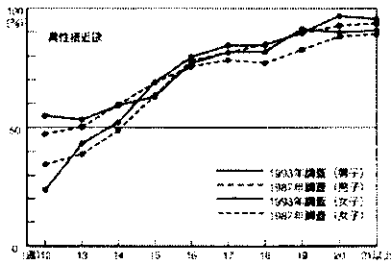


いままでデートをしたことがあるものの割合は、20歳時点を見ると、男子で約80%、女子にて約60%という数値になっており、その後22歳時点で同率(約90%)になっていた。



性的なことに関心を持ったことがあるものの割合を、過去の調査と比較した推移グラフを描いてみた。大学生の率を描いた。1987年の調査にて割合が落ち込んでいるものの、それ以前の状況と1999年の状況に大きな変化はみられず、男子ではほぼ100%のものが、女子では約90%のものが性的な関心を持っていることがわかった。

### 異性に近づいて親しくなりたい 年次推移(大学生、日本)

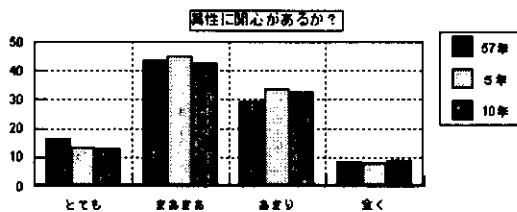


日本性教育協会 青少年の性行動全国調査、第4回報告書

また、異性に近づいて親しくなりたいと思うものの年齢別割合とその年次比較(図)を、第4回調査の報告書から引用してみた。1993年の状況と1987年の状況を比較すると、1993年の方に若干、異性に近づいて親しくなりたいと思うものの割合が男女ともに高い傾向がみられた。

青少年の性行動調査からは、近年、異性に関心のない男女が増えているという事実は読みとることはできなかった。その理由としては、青少年の性行動調査が大学や高校の学校を通じて調査を行っていることにあるのではないかと考えた。すなわち、学校というシステムにのらない人々のうちに異性に関心のない男女の増加がみられるのではないかという仮説がたてられた。その観点から、次は、義務教育の現場から報告されたデータをみてみることにする。

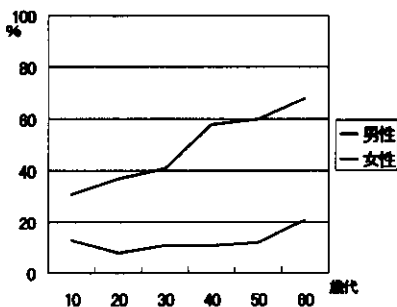
### あなたは異性に興味がありますか？ 年次推移(中学生、福岡)



福岡県立社会教育総合センター：「平成10年度家庭教育子育て支援推進事業報告書」～福岡県における中学生の意識・行動と親の養育態度・行動の実態調査のまとめ～

2-2. 福岡県立社会教育総合センター：「平成10年度家庭教育子育て支援推進事業報告書」～福岡県における中学生の意識・行動と親の養育態度・行動の実態調査のまとめ～

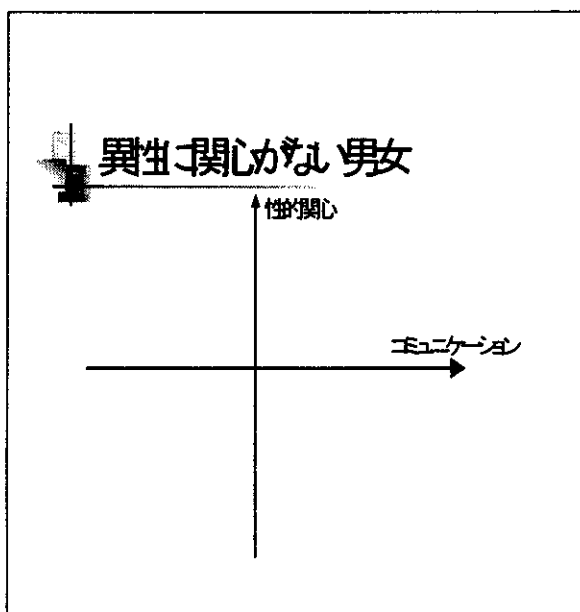
### 性的なことに(どちらかといえば) 関心がないもの(年代別)



NHK: 日本人の性行動・性意識

義務教育現場からのデータとして福岡県のデータを取りあげる(図を引用した)。あなたは異性に興味がありますか、という問いに「とても」と回答した中学生は、年次をおうごとに減少傾向にあることが読みとれた。また、「あまりない」と回答したもの、および、「全くない」と回答したものに注目すると、それらの

構成割合は若干上昇傾向にあることが読みとれた。



こなわれた調査のひとつとして、NHKによる調査をとりあげてみる。その中に、性的なことにどれくらい関心がありますかという質問がある。どちらかといえば関心がない、および、関心がないと答えたものを合算した構成割合を以下の図に示した。性的なことに関心がないものの割合は、20歳代の女性で40%に近く、男性では10%に近いということが明らかになった。すなわち、大学や高校というフィルターを通さない場合には、性的なことに関心のない男女の存在がある程度の割合で存在し、徐々に増加傾向にあることが示唆された。またそれは、女子・女性に顕著であることが明らかとなった。

### 2-3. NHK：日本人の性行動・性意識調査

つぎに、学校というシステムをはなれ、一般の人々を対象に無作為抽出法によりお

### 3. 方法

データとしては明らかになりにくいと思

われる異性に関心のない男女の存在について、それがどのようなバックグラウンドによって構成されているのかを考察していく

## 異性に関心のない男女

- 性に関心がある？ はい
- コミュニケーション良好？ はい
  - sex orientationによるもの
    - Heterosexual interestの有無
  - Homosexual Activity > 25% in men
    - ↓
  - Homosexual Activity < 3% in men

Kinsey Institute: New Report on SEX, 1991.  
Laumann E.: Sex in America, 1994.

ことにする。性への関心の有無をまず一つの軸として、また、コミュニケーションの良好さをもう一つの軸として、異性に関心のない男女の存在を以下の図にマッピングすることを試みることにした。

4. 性に関心があり、コミュニケーションが

良好なもの



これらの主たるものは、性指向によるものだと思われた。

### 異性に関心のない男女

- 性に関心がある？ いいえ
- コミュニケーション良好？ はい
- 「性」それ自体に興味がないのか？
  - ・ 関心をいつまでも持てないのか？
    - ・ 性ホルモンや視床下部周辺(受容体等)のvariant?
    - ・ 性交・生殖に至ることがないのか？
      - ・ 類人猿における状況の把握

5. 性に関心がなく、コミュニケーションが良好なもの

5-1. 性それ自体に関心がいつまでもわからないもの

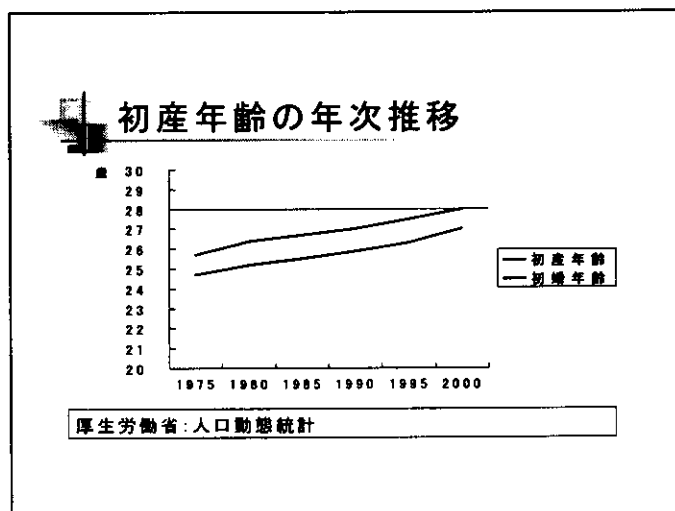
ホルモンの分泌に関するバリエーションの一つとも考えられた。

### 異性に関心のない男女

- 性に関心がある？ いいえ
- コミュニケーション良好？ はい
- 「性」それ自体に興味がないのか？
  - ・ 関心を持つ時期が遅いのか？
    - ・ 生殖年齢の上昇: 25.7歳(昭50)→28.0歳(平12)
    - ・ 性戦略のひとつとして考えられる

5-2. 性に関する興味がいまはなくてもいずれ顕在化するもの

初産年齢の上昇にともなう生物学的な性戦略の一つだとも考えられた。



## 異性に関心のない男女

- 性に関心がある？ はい
- コミュニケーション良好？ いいえ
  - 人の感情・表情を読めないのか
  - やりとりの間や空気をくみ取れないのか
    - ・ Dyssemia

Marshall Duke, Emory University: Scholarship & Research:  
Marshall Duke knows What Works with kids.  
EmoryReport, October 30, 2000.

6. 性に関心があり、コミュニケーションが良好とはいえないもの

6-1. 人との非言語コミュニケーションが苦手なもの (Dyssemia)

人との non-verbal コミュニケーションがうまくとれないものとして、米国では Dyssemia という概念が提唱されている。

## Dyssemia

- A difficulty in understanding **nonverbal** signs and signals 仲間にうまく溶け込めない状態
- 疫学 10%? (詳細不明)
- 人と触れあう機会の減少
- 親がうつ病、アルコール依存、薬物依存

Marshall Duke, Emory University: Scholarship & Research:  
Marshall Duke knows What Works with kids.  
EmoryReport, October 30, 2000.

## 異性に関心のない男女

- 性に関心がある？ いいえ
- コミュニケーション良好？ いいえ
  - 人(異性含む)とのやりとりをする気にならない?
    - 不登校・ひきこもりに関連するのか
      - ひきこもりの一部分は不登校のもちあがり
      - 「不登校・ひきこもり」というひとくくりの存在

斉藤環:「ひきこもり」救出マニュアル

7. 性に関心がなく、コミュニケーションが良好とはいえないもの

7-1. 不登校やひきこもりに関するもの

不登校やひきこもりに関連する状況が一部にあると思われた。

7-2. うつ傾向・うつ病に関する

もの

うつ傾向にあるもの、うつ病を有するものに関連する状況が一部にあると思われた。

## 異性に関心のない男女

- 性に関心がある? いいえ
- コミュニケーション良好? いいえ
- 人(異性含む)とのやりとりをする気にならない?
- Depression

### 8. その他

#### 8-1. 男女交際からの忌避

男女交際を始める前、もしくは男女交際を始めた後に経験する挫折により、その後男女交際を忌避してしまうものの存在が考えられる。

#### 8-2. インターネット依存

インターネットへの依存が強すぎて、現実生活に適応できなくなるものが考えられ

る。米国ではインターネット中毒として、精神病理の一つとして扱われる方向にある。インターネットの特徴は、repercussion-free という表現にまとめられると思われる。ちなみに repercussion とは、相手からの即座の反応や、否応なしの反応、または、相手からの歓迎すべからぬ反応や、予期せぬ反撃的な反応をあらわし、-free とは、それらから自由である、あるいは、それらを気にしなくてもよい、ということであらわす。

<h2 style="text-align: center;">インターネットの魅力</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Social Support</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現実にかけている社会関係をすぐに構築可能</li> <li>■ 強い意見を言える。相手の反応を恐れる必要はない。</li> </ul> </li> <li>■ <b>Sexual Fulfillment</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Cybersex: 究極の safe sex / fear of AIDS</li> <li>■ 無垢降: 900-からの請求書、本屋のきまずさ</li> </ul> </li> <li>■ <b>Creating a Persona</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現実には演じられない自分を演じることができる</li> <li>■ 自尊心が低いものでも、「誰」にでもなることができる</li> </ul> </li> </ul> <p style="font-size: small; border: 1px solid black; padding: 2px;">Young KS.: Presentation in 105<sup>th</sup> Annual Meeting of APA</p>	<h2 style="text-align: center;">Internet Addictionの兆候</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ひきこもり</li> <li>■ 睡眠リズムの変化</li> <li>■ ファイブーの要求</li> <li>■ 家事の怠り</li> <li>■ ネグレクト</li> <li>■ クレジットカード請求額の不明瞭</li> <li>■ 性的関心の喪失</li> </ul> <p style="font-size: small; border: 1px solid black; padding: 2px;">Young KS.: Presentation in 107<sup>th</sup> Annual Meeting of APA</p>
--	--

#### 8-3. 人工乳保育との関連

われわれは、別の研究において、母乳で育てられたかどうか、人工乳のみで育てら

れたかどうかと、乳房への関心との関連を大学生を対象に調査している。乳房への関心は、先行研究を参考に、いのちの側面、

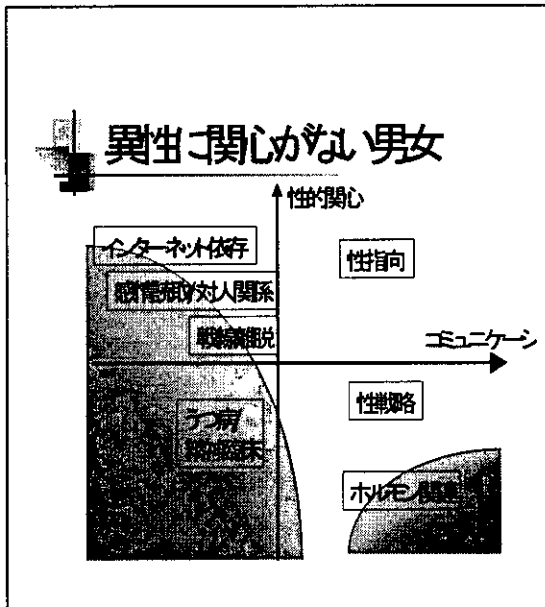
ゆたかさの側面、そして、よろこびとしての側面の3つにわけて考えた。異性への関心と関連するのは、よろこびとしての側面であるが、人工乳のみで育てられた経験の

あるものは、よろこびとしての側面の関心度が有意に低いということが明らかになった。これについては、機会を改めて論じたい。

**その他**

- **Withdrawal from Survival Wars**
  - 戦線離脱組 男性>女性 (vulnerability)
- **Bottle Feeding**
  - 乳房に関する興味(いのち・ゆたかさ・よろこび)
- **Internet Addiction<sup>\*1</sup>**
  - 社会的孤立、うつ亢進、家庭不和、離婚、学業不振、借金、失職...

られ、資料でとりあげた各方面の状況推移については今後もフォローアップが必要だと考えられた。社会的な観点からすれば、インターネット依存の項目においてとりあげた「repercussion-free」というキーワードが、今後、異性に関心のない男女を読み解く鍵となると思われた。異性に対してだけではなく、社会や社会を構成しているメンバー(他人)に対して、repercussion-freeな関係を求める傾向や、repercussion-freeな関係を求めることが可能になった状況が出現していると考えられた。



10. 文献

挿入したスライドの下部に引用文献がある場合はそれらを示した。

9. まとめ

以上の資料を検討することにより、性への関心の有無を縦軸に、コミュニケーションの良好さを横軸に、異性に関心のない男女の存在をマッピングしてみた。仮説の構築の段階といえるものではあるが、結果は以下に示す図のごとくになった。異性に関心のない男女には、精神病理として扱うべきもの(網掛け部分)も含まれていると考え